



MYTIS Arrow Implant

症例紹介 第34回

「MYTIS Arrow Implant System」をご利用いただいているBBCユーザー会の先生方が手掛けた症例をご紹介いただくコーナーです。

略歴



山本英一先生

平成2年 北海道大学歯学部卒
平成2年 音更町緑陽台歯科診療所勤務
平成3年 帯広市慶友会歯科医院院長
平成4年 上士幌歯科クリニック管理開設
平成14年 日本口腔インプラント学会専門医
平成15年 北海道大学歯学部博士課程社会人枠入学
平成19年 同卒業 歯学博士 口腔生化学研究生
平成28年 帯広北斗病院 口腔インプラント科非常勤医師
平成30年 日本口腔インプラント学会指導医
令和元年 北海道大学歯学部口腔生化学講座非常勤講師

現在にいたる

資格 歯科医師、歯学博士、介護支援専門員

コラーゲン単層タイプを使用しボーンスクリューとチューブ組み合わせた根尖側移動術における角化歯肉の幅と厚さの増加:テクニカルノート



No.1

(緒言)インプラント周囲の角化歯肉の幅が十分に存在しない場合、一定程度の既存角化歯肉が存在するときには歯肉弁根尖側移動術(APF)を選択できる。

遊離歯肉移植術(FGG)比べて、口蓋から移植片を切除する必要がなく、手術部位が一か所になり低侵襲であるため、止血や疼痛のコントロールが困難な患者や感染リスクの高い患者など、患者側の状態によって適応症の範囲は広い。

しかし、APFは、既存角化歯肉を部分層弁で離断したのち、その両端からの角化歯肉の伸延を期待するため、角化歯肉が得られても、歯肉の厚みを失うことが多い。

この部分を解決するために、二期的に結合組織移植術を選択できるが、手術が2回になり、ドナーサイトが必要になることより、FGGを超える手術侵襲となる。



No.2

われわれが考案した本法は、角化歯肉を含む粘膜弁を頬側に移動した後、サクシオンチューブおよびチタンスクリューで固着した後、裂開部分にテルダーミス®コラーゲン単層タイプ(Terumo Inc, Japan)を介在させることにより創部を保護する。